

# 教えて!

## 富山 けいざい



### 海洋プラスチックごみってなあに？

#### ◆人体への影響心配

Q－何がごみになるの。

A－まちなかに捨てられたレジ袋やペットボトルなどのプラスチックごみが排水溝や河川を經由し海に流れ出たケースや、海で使われるプラスチック製の漁具が原因になる場合などがあります。

Q－どんな影響がある。

A－プラスチックは自然分解されずいつまでも残るため、生態系を含む海洋環境や船舶の航行、観光・漁業、沿岸域居住環境への被害が想定されます。波の力や紫外線などの影響を受けるなどして小さな粒子になります。5ミリ以下になるとマイクロプラスチックと呼ばれ近年、生態系だけでなく、海産物を通じて人体にも影響を与えることが心配されています。

Q－どのくらいの量なの。

A－世界では年間800万トンものプラスチックがごみとして海に流れ込んでいると推計されています。このペースで増えていくと、2050年には、海にすむ魚すべての重量より重くなるとされ、「プラスチックの海」になることが懸念されています。

Q－削減の取り組みは。

A－国は「3R（リデュース、リユース、リサイクル）＋リニューアブル（持続可能な資源）」を基本原則にプラスチック資源循環戦略を策定しました。重点戦略として、ワンウェイプラスチックの使用削減や、石油由来プラスチック代替品の利用促進、海洋汚染を生じさせない対策などを行っています。

県は、08年4月に全国で初めてレジ袋の無料配布をやめる取り組みを始めました。18年のマイバッグ持参率は95%で全国トップです。国も来年からのレジ袋有料化に向けた議論を始めました。県内では飲食店が紙製のストローを提供したり、鋳物関連メーカーがスズ100%のストローを商品化したりするなど「脱プラスチック」の動きが出ています。

（解説は北陸経済研究所の内田常雄。随時掲載します）

